

～今月の花木～



バクチノキ 博打の木

バラ科サクラ属・常緑高木

別名「毘蘭樹(ピランジュ)」。絶えず古い樹皮が剥がれ落ちる様が、博打に負けた者が身ぐるみを剥がされることに例えたことが由来とされている。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
都内全体	イチヨウ	ハナミズキ	サクラ類	トウカエデ	ケヤキ	771,086	1,014,405
	64,563	64,165	45,043	37,836	31,712		
都道	イチヨウ	ハナミズキ	トウカエデ	プラタナス類	ケヤキ	519,207	620,374
	31,472	21,591	18,301	17,869	11,934		
国道	イチヨウ	プラタナス類	マテバシイ	ケヤキ	ハナミズキ	11,855	26,562
	7,556	2,226	1,812	1,603	1,510		
区道	サクラ類	ハナミズキ	イチヨウ	クスノキ	ケヤキ	161,009	236,321
	22,622	19,812	14,469	10,047	8,362		
市町村道	ハナミズキ	サクラ類	イチヨウ	トウカエデ	ケヤキ	65,499	131,148
	21,252	13,332	11,066	10,186	9,813		

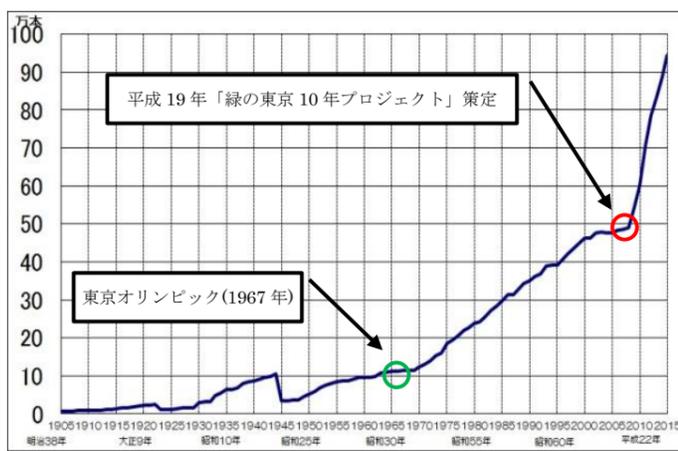
東京都の道路別街路樹本数(H28. 4月時点 TOKYO道路の緑2016より)

東京都によりますと、平成28年4月の時点で都内には100万本以上もの街路樹が植わっており、特に平成19年に「緑の東京10年プロジェクト」が策定されたからは飛躍的にその本数を増やしています。

街路樹は道路法により「道路の付属物」として扱われているため、道路建設の際には、法律の基準に則り植栽の場所や大きさの規格が定められており、その基準を満たすような街路樹の植栽計画が作られることとなります。

樹種を見てみると多く植えられているものは落葉樹が多いことがわかります。これは夏は葉を付けて日陰を作り、冬は落葉して日光が地面まで届くといったメリットや、落葉時の紅葉による景観の美しさなどが理由として挙げられます。

街路樹は道路法により「道路の付属物」として扱われているため、道路建設の際には、法律の基準に則り植栽の場所や大きさの規格が定められており、その基準を満たすような街路樹の植栽計画が作られることとなります。



東京都の街路樹本数の推移(東京都建設局HPより)

街路樹とはその名の通り、街路(市街地の道路)に植えられている樹木の事で、樹種・大きさ等も様々です。サクラの時期や紅葉の時期などには「通り」のサクラが満開になっていきます、「通り」の紅葉が見ごろを迎えています。などその街路の個性として親しまれています。

今回は主として東京都にある街路樹の一部をご紹介しますと共に、管理という視点からその今後を考えていきたいと思います。

街路樹の話 ～さまざまな個性とその今後～

色々あります！街路の樹木達

街路樹として多く植えられている樹木からめったに街路樹としては植えられていない個性派まで、都内とその周辺だけでも数多くの街路樹が存在します



👉 サクラ (中野区中野通り)

サクラは日本人にはなじみの樹木であり、街路樹として都内に多く植栽されています。特に中野通りは通りの両側に植栽されたサクラがトンネルのようになるため花の時期には非常に美しい桜並木を見ることができます。



👉 イチヨウ (八王子市甲州街道)

都の木であるイチヨウは古くから植栽されており、神宮外苑など高木となったイチヨウ並木の紅葉は見たえ十分です。イチヨウが市の木でもある八王子市のイチヨウ並木もなかなかのボリュームをほこります。



👉 ハナミズキ (清瀬市竹丘中央通り)

近年街路樹として多く植栽されイチヨウに次ぐ都内第2位の植栽本数をほこります。街路樹としての歴史が浅いためサクラやイチヨウのような見たえはありませんが、ピンクや白の花、赤い実に紅葉など楽しみが多い樹木です。



👉 ケヤキ (埼玉県国道463号線)

さいたま市浦和区～所沢市までの延長約17kmには埼玉県の県木であるケヤキがおおよそ2,400本植えられており、「日本一長いケヤキ並木」として有名です。



👉 カリン (東久留米市新小金井街道)

街路樹としては少数派ですが、東久留米市では地元の要望を受け都道の一部に植えられています。実が大きく固いため落下によるケガが無いよう実の摘み取りや看板での注意喚起を行っています。



👉 ヒトツバダコ (小金井市ナンジャモンジャ通り)

日本では対馬・岐阜県・愛知県のごく一部にだけに分布し、とても珍しく何の木かわからなかったことから別名「ナンジャモンジャ」と呼ばれています。街路樹としては極めて珍しい樹木です。



台風によるケヤキの倒木

近年ゲリラ豪雨と呼ばれる非常に強い雨や台風、冬の大雪など、短期間で非常に大きな被害をもたらす気象災害が発生しており、街路樹の倒木や枝折れ等の被害も出ております。特に高木が倒木すると、車両通行への影響だけでなく、建物の破損、最悪人的被害が発生する恐れもありその影響は深刻です。



電線をかわすように剪定された樹木

道路の周辺には電線・看板・信号機など多くの設備があり、街路樹はそれらと競合する形で植えられています。剪定を行うにあたり、インフラに影響を与えないように対応することは非常に重要ではあります。剪定の樹木が持つ美しい樹形からかけ離れた形に剪定せざるをえないこともあり、業者としても心が痛みます。

街路樹の持つ課題 ～街路という環境～



街路樹がさらされる外的要因

街路とは、人の生活の中にある環境であり、人工的に作られた場所になります。また、植栽帯の周辺はアスファルトやコンクリートで舗装され、車両の排気ガスに常にさらされ、頭上には電線・電柱・看板と様々な外的要因に常にさらされる過酷な環境です。そのため、街路樹は公園や山林のように自然があるままの姿を維持したまま存在することは事実上できないと言えます。

また、街路樹の管理は定期的に行われることが必須であり、中には清掃作業のような毎年必ず行わなくてはならない管理もあるため、植えれば終わりではない街路樹ならではの課題も多くあります。

そのような中、東京オリンピックを契機に植えられた街路樹は近年、高齢木かつ高木となり、新たな課題が発生することとなっています。



樹木の巨大化に伴う植栽帯の破壊

サクラやケヤキなどの街路樹が大きくなると樹木の根が植栽帯のブロックや周辺の舗装を動かしたり持ち上げたりすることになります。持ち上げられたアスファルトは割れたりデコボコになるため、自転車が通ったり、自動車などが通行した際に予期せぬねはね方を生じ、転倒する恐れもあり、大変危険です。



カリンの実の回収

落葉や実りは季節の訪れを感じさせる美点ですが、同時に管理の面では大きなデメリットとなります。地面に落ちた葉っぱや樹木の実は放置すると滑って転倒したり、悪臭の原因となるため清掃が必要となります。しかし、高木の多い街路などでは葉っぱの量も多くその清掃費用は多額となるため管理費を圧迫します。

街路樹をより良く管理するための取組み～街路樹管理を支えるスペシャリスト達～

街路樹剪定士～街路樹剪定のスペシャリスト～



街路樹剪定という環境ならではの施工が街路樹剪定士には求められる

街路樹を始めとして、庭木・公園樹木に至るまで幅広い造園に関する知識と技術を求められる資格に造園技能士がありますが、街路樹剪定を行う際にはただ剪定を行うだけでなく、街路ならではの様々な外的要因にも対応しつつ作業を行う必要があります。

そこで平成11年に造園技能士の資格を持っている人や、豊富な経験のある職人を対象に資格試験を行い、合格者を街路樹剪定士として認定することとなりました。

街路樹剪定士は樹木剪定に関する知識と技術だけでなく、都市景観や交通安全、防災機能などを総合的に判断した管理計画や、作業時の安全管理や労働災害に対する対策と関係法令の知識など、街路樹剪定という環境ならではの知識と技術が求められます。

その高い知識と技術は街路樹剪定以外の剪定作業の案件でも、街路樹剪定士の資格保有者を条件とする事例もあるほどです。

街路樹診断士～街路樹診断のスペシャリスト～



樹木診断は専門の知識と資格を持つ者が行わなくてはならない

樹木の調査・診断を行い、必要な処置を施したり、管理者に適切なアドバイスをすることで樹木の枯損や倒木を未然に防ぎ、樹木の保護を行う専門家を樹木医といい、樹木医の中でもさらに実務経験を積んだ人が資格試験を合格することで認定されるのが街路樹診断士です。

街路樹診断士には樹木医としての樹木の診断に関する知識はもちろんの事、街路樹や公園樹木などの都市樹木に関する法規や役割などさらに踏み込んだ知識が求められます。

東京都では街路樹を計画的に管理していくために、平成10年より「街路樹診断」事業として街路樹の診断を行い樹木の状態を管理することで倒木や事故の未然防止に取り組んでいます。

現在では都内の区市町村でも同様の取り組みが行われ始めており、診断が行われた樹木は状態を記したカルテが1本ごとに作成され今後の管理にいかされています。

あしがき 8・9月号の編集をさせていただきました。今回2度目の編集となり、見る人がわかりやすい内容が心がけました。いかがでしょうか？